

日本キリスト教会大阪北教会

2017年1月15日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書15章1節～10節

01「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。02 わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。03 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。04 わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながってなければ、実を結ぶことができない。05 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。06 わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。07 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。08 あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。09 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。10 わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

《説教》『あなたたちは私の愛の内に留まりなさい』

◆全国的な記録的な寒波の中、主の日の礼拝を守るために教会に集うこと、それだけでも大変なことだと思います。牧師である私は、教会に住んでいますから大丈夫ですが、こういう場合、皆さんは大変なことだと、今更のように思いました。私はこの教会に赴任してこの春で23年になります。赴任して1年も経たないうちに、あの「阪神淡路大震災」が起きました。私のこれまでの人生で一番大きい揺れでした。私は地震や火事などがあると、飛んで出て現場を見に行くタイプの人ですが、あの地震の時はさすがに寝床から出ることではできませんでした。前任地は北海道の苫小牧でした。雪はそんなに降らないのですが、一旦、雪が降れば、それが凍って解けません。教会の周りの雪が凍って、そこで子どもたちが、アイススケートができる程です。今日は、そんなことを色々思い出しながら、主の御言葉を読みました。

◆わたしたちはこの聖書という書物が命の糧なのだということを、この年になって、思わない日はないのでありますけれども、この聖書のことを英語で、オールドテストメント(旧約聖書)、ニューテストメント(新約聖書)ということについては何度も申して来ました。この「テストメント」という言葉はラテン語に由来する英語で「証言」というのが第一の意味ですが、「遺言」と訳されることもあります。その人の「最後の証言」が「遺言」ですね。しかしわたしは聖書のことをテストメントというふうに表示することについてあまりすっきりしない思いで年を越してきました。なぜならば、今申しましたように、遺言というのは、死後に向けて言い残す、その人の最後の言葉ですね。人間の言葉としては、それはわかります。しかしわたしのこだわりは、永遠に生き給う神様の御言葉、復活のイエス様の御言葉を、「遺言」というのは、どうもすっきりしない。皆さんもこれまで聖書を読んでこられて、聖書に記されていることを承知し

ておられます。旧約聖書は主として、神様のお言葉と、そのお言葉によって捕えられたイスラエルの民、ユダヤ人の証言ですね。新約聖書は、イエス様のお言葉とその御業、及びそのイエス様についてのクリスチャンの証言、これらが聖書の中身であります。

◆それで今日の聖書を見ますと、1節にこうあります。「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」イエス様は、御自身をぶどうの木にたとえておられます。イスラエルの民にとって、ぶどうの栽培というのは、日常身近なことですね。これはイエス様の譬えであります。旧約聖書を見ますと、イスラエルの民は「良い実を結ばないぶどうの枝」に譬えられることが多いですね。そんな次第でイエス様の、人々に分かりやすいたとえを用いておられるわけですね。ここでは「ぶどうの木」ですが、これまで読んでまいりましたこの福音書で、イエス様は別の譬えを語っておられます。10章11節です。「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」こういうふうに言っておられます。そして、この「羊飼いです」という例えを聞いて、旧約聖書の詩編23篇を思い出さないユダヤ人は一人もいないと思います。クリスチャンもそうです。そして今日もまた「わたしはまことのぶどうの木」というこの譬えを聞いて自分たちのことを思わないユダヤ人は一人もおられません。そこで私はこういうヨハネ福音書にみられるイエス様ご自身の譬えから、「テストメント」＝「証言」という訳は別として、「遺言」と訳す場合、「テストメント」という表現を「譬え」と理解すればいいのだ、というふうに読みました。先ほど申しましたように、聖書の内容は、旧約聖書は神様の言動、それに対するイスラエルの民の信仰告白、また証言であります。新約聖書はイエス様の言動と、信者クリスチャンたちの証言、信仰告白であります。それで、これらの膨大な内容を一言で言えば、そして例えて言えばテストメント＝「遺言」なのだ。つまり、その人にとっての、最後のなギリギリの言葉としての「遺言」、そのようなものとしての、神様のギリギリの思いを表わし「御言葉」とそその「御業」、そういうものが聖書の中身なのだというふう理解すると、正に、それが「テストメント」なのだということで、少しすっきりいたしました。

◆今日の聖書の1節から3節にこうあります。「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。15:02 わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。15:03 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。」これは先ほどもうしましたように、イスラエルの民にとってはぶどうの栽培というのは全く日常的なことであります。そしてこれは大変手間のかかる仕事だとも言われています。ですから良い実を結ばせるためには剪定、実を結ばないと見られる枝を、農夫は剪定するわけであります。実を結ばない枝はみな農夫が取り除くのです。そして剪定を免れた枝には、豊かに実がなっていくという訳であります。神様も、実を結ばない枝は切り落とされるということでもあります。しかし実を結ぶものはいよいよ豊かになるように手入れをなさる、ということです。しかしここでイエス様は、「わたしの話した言葉によってあなたがたは既に清くなっている」と言われます。つまり、あなたがたは剪定済の、幹に連なって残された枝々だということでもあります。それをイエス様は、「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている」と、こうおっしゃっています。先ほどの10章の羊飼いの譬えでも、「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」このことをイエス様は再三おっしゃっています。この御言葉を弟子たちが聞いた時、そして今

年のわたしたちの教会の主題聖句、「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」との御言葉を、弟子たちは十字架から三日後の日曜日の夕刻に初めて聞くのですが、そしてわたしたちも今、聞くのですけれども、この御言葉を聞く時に、この御言葉によってわたしたちは剪定を免れるのです。剪定されたぶどうの枝は何の役にも立たない、本当に捨てられるだけだそうです。そのようなことでありますけれども、そして弟子たちも、そしてわたしたちも、切り捨てられて、捨てられるだけの者でありながら、そのような者のために命を捨ててくださるイエス様のおかげで、わたしたちの今があるわけであります。そしてわたしたちの今年の主題聖句として与えられた御言葉は、昨年と同じ御言葉、「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」であります。この御言葉を聞いて、最初の弟子たちは、滅びを免れ、死から命へとよみがえらされたわけであります。聖書はそのことを記しております。そしてこれはわたしたちキリスト者の、私達自身の経験でもあります。

◆主イエス・キリストの死と復活に与る儀式は洗礼でありますけれども、その洗礼を受けた者は、主イエス・キリストのおかげで永遠の、朽ちない命に入れられているのであります。先週の日曜日、久保淵博兄と幸子姉さんの弟さんが淀川キリスト教病院ホスピスに入院しておられて危篤状態なので看病につかれました。そして9日の夕刻に亡くなられ、本当に家族葬ということで、お身内だけで送られたのですが、わたしたち日本人の場合、自分だけがクリスチャンという場合がまだまだ多いですね。けれどわたしたちが本当に洗礼の恵みに与ってイエス様の十字架の死と復活の命に与る者とされて今あるというのは、わたしたち自身のことでありながら、そしてそういうふうな恵みに与ることなしに召され、亡くなっていく、身内はまだまだ多いわけですね。けれども、わたしが何の功もなく、この恵みに入れられたのですね。そして身内を愛さない人はいないわけです。これは私自身の経験ですが、母がまだ洗礼を受けていない時、私は北海道にいましたから、こんなに離れていて、もし母が死んだらどうしようと思い巡らせていた時、私は、私がいただいた洗礼の恵みを母に上げようと思いました。わたしがそう思っていた時、私は一つの区切りがついて、あまり思い悩まなくなりました。

◆ですから私一人がこの恵みに与っているということは、私一人の事だけではなくて、自分の家族、一族、そして本当にこの日本の全ての人々のための私なのですね。すでに読んできた所ですが、この福音書の11章25節～27節のところに、マルタ・マリア・ラザロの物語が記されております。そして25節でイエス様は、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者は、だれも決して死ぬことはない。このことをしんじるか」とイエス様はおっしゃいました。それに対してマルタは言います。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」このように、イエス様のお言葉を聞いた者は、まさに死から命へ、移されているわけであります。

◆今日日曜学校でマルタとマリアの話をしました。イエス様一行をもてなすために姉のマルタは大忙しです。ところが妹マリアはと言えば、イエス様の足元でじっとお話を聞いている。マルタはイライラして、イエス様に「先生からも妹に手伝うようにおっしゃって下さい」と言います。するとイエス様は言われます。「ルカ10:41 マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。10:42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を

選んだ。それを取り上げてはならない」と。私たちにとっても大事ななくてはならないものは、その時のマリアに見られるようにイエス様の御言葉に聞き入ることです。「わたしは復活であり命である。わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれでも、決して死ぬことはない。」「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」このようにイエス様はかつておっしゃったし、今もわたしたちにそう言ってくださいます。この主の御愛の内に留まることが唯一大切なことであります。生きていますと本当に色々な事が起ります。しかし私達は、常に主イエス・キリストの御愛の内にいるのです。この一事で、如何なる試練も越えられます。

◆この前、讃美歌484番「主われを愛す」を歌いました。これをわたしも愛唱賛美歌に加えたいと思いますけれども、教会創立125周年の時に「教会との出会い」というテーマで記念誌を発行しました。そこに皆さんの文章と愛唱聖句、愛唱讃美歌も載せていただきました。私もローマ書8章31節以下を愛唱聖句として記しました。これは使徒パウロのことばです。正に彼は、剪定さ、切り落とされても当然のことをしました。そして実際彼は切り落とされます。しかし、一度切り落とされた彼が、憐れみによって再生復活させていただくのです。そして彼は証言します。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死にわたされた方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。だれがわたしたちを罪にさだめることができます。死んだ方、否、むしろ復活させられた方であるキリスト・イエスがわたしたちのために執り成してくださるのです。だれがキリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」これがパウロの信仰、パウロの言葉、証言であります。

◆今日の9節で、主イエス様はこういわれます。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい」と。そしてもう一度今年の主題聖句を覚えましょう。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」。このイエス様の御言葉は絶対の罪の赦しの言葉です。どうしようもない過ちを犯した者たちに対する心底からの信頼の御言葉です。そしてこれはイエス様の遺言というのは御幣があるでしょうが、不退転の決意ですね。正に Testament であります。このイエス様の御言葉、をわたしたちは魂に刻んで、いよいよイエス様の十字架の死と復活の命に与っていく日々を、歩んでまいりたく思います。

◆お祈りいたします。憐み深い主イエス・キリストの父なる神様。

私達はさまざまな恐れに捉われる者であります。どうか、ただあなたの御言葉を信じ、あなたにのみ頼み、あなたの御愛の中に留まるものとして下さい。どうか、今、困難の中にある者を、あなたが捕え、命の道へ呼び戻してください。この祈り主イエス・キリストの御名を通しみ前にお捧げいたします。アーメン。